

■2011年04月11日, 佐々木(高島) 杏佳様 (2000年大学院入学)

先日、あるラジオで読み上げられた投書で、心に残った言葉がありました。
「顔晴れ!…頑なに耐えることを張り通す”頑張れ”ではなく、顔が晴れやかになりますよう、祈りを込めて。」被災された方、どうぞ明るい明日が来ることを信じて、顔晴ってください。

■2011年04月11日, 猪股浩平様 (27回生)

東日本大震災への被災、心よりお見舞い申し上げます。また、薬学部の被災の様子を伺い、大変心配しております。

先日の余震で、さらに被害が拡大しているとも聞いております。東北薬科大学は、免震構造の建物でしたので、幸いなことに大きな被害は免れております。同じ在仙の大学として、ご協力できることがありましたら、何なりとお申し付け下さい。現在、第27期生の安否確認を行っております。

今のところ、半数ほどの無事を確認しておりますが、もう少しまとまりましたら、ご報告致します。

尚、作業の過程で、第26回生 藤田繁和さんの安否情報(下記)が届きましたので、ご連絡致します。

一日も早い復旧をお祈り申し上げます。まずは、取り急ぎお見舞いの方々、ご連絡まで。

■2011年04月11日, 藤田繁和さん(26回生)

ご無沙汰しております。この度は、東北大学薬学部をはじめ、仙台宮城の方々、東北の方々被災され、心よりお見舞い申し上げます。現在私は徳島に在住しており、家族ともども震災による被害はありません。東北にいる親戚も無事です。大学卒業昭和60年度(1985年度)、大学院入学昭和62年度(1987年度)です。

■2011年05月30日, 水野左敏様 (1回生)

本年の5月28日に薬学部一回生同窓会が作並温泉松屋旅館で行われました。その際参加者14名で薬学部を訪問いたしました。突然の訪問にもかかわらず大島教授(大学院研究科長)が親切に対応していただきまして震災の被害の状況など説明いただき誠にありがとうございました。

同窓会二次会では、薬学部訪問についての話も出て、義捐金というかお見舞いの気持ちを表すために10万円を集め、一回生の高橋威夫さんから大島教授を通じ、薬学部の復興に少しでも役立っていただきたいと気持ちを届けていただくことになりました。

復興にはさらに長い時間がかかると思いますが、教育と研究への使命感を再確認してがんばっていただきたいと思います。以上、ご報告申し上げます。